

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691800102		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターゆらの里 (こもれび)		
所在地	京都府綾部市豊里町福垣243番地		
自己評価作成日	2014/1/8	評価結果市町村受理日	平成26年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigekensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigisyoCd=2691800102-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaigekensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigisyoCd=2691800102-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年1月31日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、ご入居者様主体の余暇活動や役割分担により、生き生きとした毎日が送れるよう取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後1年を迎えた当該ホームは地域交流に力を入れたいという思いを持ち、地域のコミュニティーセンターとは常に行き来する機会を持ち、文化祭には利用者の作品を出展したり、地域の防災訓練への参加や中学校の運動会の見学など地域の行事にはできるだけ参加するよう努めています。また、理美容院や衣料品、食材などの購入は地域の店を利用するよう心がけ、今後も地域との良好な関係構築のため地域と密着した交流ができるよう取り組んでいきたいと考えています。職員の連携は良好で意見や提案がしやすい環境であり、日常業務の中でも積極的に意見を出し合ったり、委員会を立ち上げ話し合う機会を作りサービスの向上に努めています。また、笑顔で挨拶を行い接遇にも配慮しながら利用者が穏やかに安心して過ごせるよう日々のケアに当たっています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2月に新規開設した当グループホームは全職員に研修の場を設け、地域の方との交流も図り実践につなげています。	職員間で意見を出し合い作成した事業所独自の理念を広報誌に掲載したり、毎日唱和することで職員に意識づけるよう努めています。研修の機会を多く持ち職員のスキルアップを図ると共に、学んだことを利用者の日々の暮らしの中に取り入れ理念に沿ったケアの実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には出来る限り参加しています。	自治会に加入し地域の行事に参加するよう努めています。文化祭に利用者の作品を出展したり、運動会の見学や地域の祭りには獅子がホームを訪れてくれるなど、少しずつ地域との交流が深まっています。地域のコミュニティーセンターとは日頃から関わりを持ち、理美容院や食料品などの購入は地域の店を利用するよう心がけ、地域との関わりの機会を多く持てるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会様依頼で認知症予防のお話をする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	検討事項で、地域での行事などの案内を頂くに参加して、地域との交流に取り組んでいます。	会議は家族や市職員、自治会長、歯科医師、地域包括支援センター職員等の参加を得て2ヶ月毎に開催しています。ホームの近況報告などを行い、歯科医より誤嚥性肺炎や口腔ケアの大切さ等について学んだり、外出行事等のアドバイスをもらいサービスに反映させています。改善策については次回の会議で報告しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にご出席して頂き活動や入居者状況など報告しています。	運営推進会議への市職員の参加があり、ホームの現状等の理解を得ています。また役所に置かれているホームのボックスに入っている書類等を取りに行った時や電話等で相談をしています。市主催の連絡会や研修会に参加し交流を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止について職員研修を行う。	職員は入職時研修や事業所独自の勉強会で身体拘束についての理解を深めています。疑問があればその都度説明し、言葉の制止等が見られた場合はその場で注意を促すと共にノートに記載し、職員間で共有しています。玄関は開錠し、ユニット間は自由に行き来できるようにし、閉塞感のない暮らしの提供に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について職員研修を行う。		

ニチイケアセンターゆらの里(こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分な研修は、行えていませんが来年度の研修課題として取り入れます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明を行い理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議録の掲示や意見箱の設置しています。家族様来設時には、意見を伺ったりしています。	運営推進会議や面会時に意見や要望を聞いています。外出行事についての要望があり、ホテルでの食事会を計画し家族の参加を得て行うなど、得られた意見は検討し運営や改善等に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご利用者様にとって何がよいのか常に關心を持ち、職員の話聞いています。	朝礼時や月1回のミーティング時に意見や提案を聞いています。職員は日常業務の中でも積極的に意見や提案を行っており、献立、広報、行事、研修等の委員会を立ち上げ、委員会を中心に様々な意見について話し合っています。服薬管理や食材の購入についてなど出された意見は検討し、日々のケアやサービスの向上等に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度があり、随時挑戦している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修年間計画を立て、毎月研修を行っています。また近隣の研修予定の回覧もまわし、積極的な参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月居住系の会議を行い情報の共有をしています。		

ニチイケアセンターゆらの里(こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の意向を取り入れ傾聴し共感することで心の交流を心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めて、グループホームをご利用頂く事の不安を一緒に感じ、ここでの生活をこまめに報告して信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時、グループホームの説明と共に他サービスの情報もお伝えして必要であれば紹介もしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えあえる関係を取れているご利用者様もありますが、こちらから促しの必要な方もあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを家族に伝え、家族様とご本人様のコミュニケーションがとれる様に支援する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様との連携は常に心がけています。この地域との交流は積極的に参加を心がけています。	友人や近所の方が訪ねて来られた際は部屋へ通しお茶を出すなどゆっくりしてもらい、気軽に訪ねてもらえるよう配慮しています。法事や墓参りなど家族と共に出かけたり希望により職員が付き添うこともあります。唄いなど趣味の継続についても必要に応じて職員が付き添うなど、今までの関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ居間で過ごして頂き、ご利用者様同士が共に、作業や食事の後始末などして頂き一緒に達成感を味わってもらっています。		

ニチイケアセンターゆらの里(こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了された方はおられません、その様な状況になった場合には相談や支援に努めます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様と協力の上、出来る限り思いに沿う様に連携をとっております。	入居前に利用者や家族から生活習慣や好み、馴染みの人など詳細にアセスメントを行い、意向の把握に努めています。利用者の意向に繋がる日々の言葉や表情等から汲み取った思い、家族から聞いた情報は介護記録に記載し、入居時の基本情報等に追記しながら職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	傾聴や共感することで、その方を深く知り情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活を大事に今の体力が維持できるように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活を行う中でご本人の意向にそった暮らしができるようにモニタリングしています。	利用者・家族の意向や日々の暮らしの中から得た情報等を基に介護計画を作成しています。短期目標毎にモニタリングを行い、状況に変化がなければ6ヶ月で見直しを行っています。見直しの際には職員、歯科医師等の参加を得て担当者会議を開催し、家族の意向や往診時の情報等も加味し、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	見守りの中で常に個別性を考え、その人が、その人らしく過ごせるよう職員間で継続したケアをして介護計画に繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが出てきたら検討して、取り組んでいます。		

ニチイケアセンターゆらの里(こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開設1年がたとうとしている中で、地域の方の活動や行事など知る事が出来て、今後はもっと地域に積極的に参加できるように支援していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様の状態にあわせ、往診や通院介助の支援をしています。	契約時に入居前のかかりつけ医を継続できることを説明し、協力医に変更している方もいます。以前からのかかりつけ医への受診は家族が対応し、家族と受診時の情報交換を行っています。協力医へは職員が同行し受診したり、状況に応じて往診を2週間に1度受けています。訪問看護は週に1度の来訪があり、24時間連絡できる体制があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	H25年12月より訪問看護を利用する事になり、個々のご利用者様の状況把握してもらい、24時間体制で対応して頂き適切なアドバイスをして貰っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員様と医師や家族様との連携でスムーズな関係作りを行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護を利用することが決まった時点でご家族に医療連携の説明と共に重度化されたり、終末期のことも今後考えていく必要がありますねと声かけはしてありますが、事業所の方針を早い段階に本人や家族と話す必要性を感じています。	訪問看護の受け入れと共に、終末期の指針を作成し医療行為がなく介護支援のみであればホームで看取り支援を行うという説明をし、家族の意向確認を行っています。職員にも看取りについての説明をして方針を共有しています。ホームでの看取り支援ができない場合は、病院等の受け入れ先を紹介することもあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルに沿った行動をするように、常に連絡体制はとっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自治会や民生委員様との連携をとり、地域の訓練にも参加しております。	年1回消防署立ち合いの下、昼間想定で避難訓練を行い、消防士からアドバイスをもらっています。事業所独自の訓練も年1回行い、通報、避難誘導の他に水消火器を使用し消火訓練を行っています。運営推進会議で報告し地域の防災訓練にも参加しています。	地域の方の参加を得て避難訓練を行うなど、協力体制の構築に向けた取り組みを期待します。

ニチイケアセンターゆらの里(こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しく接しても、言葉かけはご入居者をうやまい尊厳をまもるように心がけています。	入職時の新人研修や事業所での研修にて職員への周知に努めています。日々の業務の中で言葉遣いに注意するよう伝えたり、月毎に接遇についての目標を掲げ、朝礼時などで話し合いを行っています。不適切な言動が見られた場合はその都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の声かけの中で興味のあることやしたい事を感じとり、実現できるようお手伝いしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームはゆっくり穏やかな時間の流れです。お一人、お一人様の希望に沿うよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択については行事の時などはおしゃれして頂いていますが、平日は清潔で暖かでお気に入りの洋服を一緒に選んで頂いています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や季節を感じる食事の提供や、一緒に後片付けをゆっくり話をして、家族の一員のような雰囲気味わって頂いています。	献立は法人の栄養士が作成した物を参考にし、食材は業者から届けてもらったり、職員が買いに出かけたりしています。野菜の下ごしらえや米とぎ、食器洗いや茶碗拭きなどできることに関わってもらい、庭で採れた野菜を利用したり、誕生会など行事の時には利用者の好きな物を取り入れるなど、食事が楽しめるよう支援しています。また、寿司などの出前を取ったり、家族と共にホテルでの食事を楽しむこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量を介護記録にて把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週月曜日に歯科衛生士による口腔指導を受けています。		

ニチイケアセンターゆらの里(こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人様にあった声かけをして自立した排泄を支援しています。	排泄記録を参考に個々のリズムを把握し、トイレで排泄できるよう支援しています。入居時紙パンツを利用されていた方の失敗が減り、布の下着に変更するなど自立に向けた支援に取り組んでいます。夜間のみポータブルトイレや紙パンツを使用するなど、個々の状態に合わせて改善できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料や乳製品を提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	あらかじめ曜日は決めています、ご本人の意向に合わせて入浴して頂いております。	入浴は午後から準備を行い、週に2回は入ってもらえるよう支援しています。午前中や夜間の入浴も職員体制が整えば可能となっています。時には入浴剤を入れたり、職員と話しをしながらゆっくりと入ってもらい、拒否のある場合は時間を変えて声を掛けたり、足浴や清拭に変更するなど、無理強いせず入ってもらっています。湯は毎回入れ替え衛生面にも配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個室にて、ご入居者様の入眠時間に合わせた見守りを提供しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の服薬処方を職員全員が確認し間違いの無いようにダブルチェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居前までされていた趣味活動や畑仕事が続けられるよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散髪や美容院、お買い物などご本人様の意向に合わせて外出を随時支援しています。	希望があれば散歩や買い物に出かけ、年1回のホテルでの食事会には家族の参加を得て出かけています。美容院や歌謡ショー、相撲など希望に応じて個別の外出支援を行っています。時にはベランダに出て外気浴をしながら気分転換を図ることもあります。	



ニチイケアセンターゆらの里(こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお小遣い金は、施設でお預かりさせて頂き、ご利用時にご本人様が自由に使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけたい、手紙を書きたい、と言われた場合家族様と連携とって支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間やローカ、玄関には、入居者様と職員で作成した季節の作品を飾り季節感を味わって頂いています。	リビングは大きな窓からの採光で明るく観葉植物や空気清浄機、加湿器などを置き居心地の良い共用空間となっています。壁には利用者と共に作成した多くの切り絵やちぎり絵、写真等が貼られ温かい雰囲気があります。ほとんどの利用者はリビングで過ごされ、体操やゲーム、歌等を楽しむなど、居心地の良い環境づくりに配慮しています。また、畳コーナーは洗濯物をたたむ場所としても活用しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座りなれた馴染みの席で気の合う方、とくつろいで頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調設備を整え、本人様の生活スタイルに合わせ、落ち着いて過ごして頂いています。	入居の際に使い慣れた物を持参してもらおうよう伝えベッドやタンス冷蔵庫、テレビ、ソファなどを持ち込まれています。家族の写真や蓄音機、火鉢、古銭、本など大切なものや趣味のものも持参され安心して過ごせるよう配慮しています。居室は洋室となっていますが希望に応じて絨毯の上に布団を敷き休む方もあります。それぞれの表札付近にはフクロウの縫いぐるみや折り紙で作った花など目印になるものを飾り居室がわかりやすいよう工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	オープンキッチンで料理や、食器洗い、食器拭きも手伝って頂いています。		